

歓喜院聖天堂の彫刻南壁

奥殿南壁の彫刻には、歓喜院でもっとも有名な仏教寓話が描かれています。1 枚目の彫刻では、急な流れの川の土手から引き上げた猿を鷲が掴んでいます。猿が怖がる一方で、隣の彫刻の猿は困惑した様子でそれを眺めています。一見すると鷲が猿を襲っているように見えるものの、実際には猿が川に落ちてしまわないよう鷲が助けているのです。この猿は人類を表し、鷲は聖天様を表しています。

軒下には、猿と鷲の頭上を飛ぶ色鮮やかな鳳凰が描かれています。熟練彫刻師、石原吟八郎または左甚五郎の弟子が彫ったものであると考えられています。鳳凰は、平和と新たな始まりを表します。

これら 2 枚の彫刻の左側には、七福神の 1 人である寿老人が田舎の風景を背景に描かれています。寿老人は長寿の神で、鹿や鶴や亀といった長寿を象徴する動物たちに囲まれています。

軒下の高い位置にある小さな彫刻には、大きな緑色の容器を囲む仏陀、孔子、そして道教の開祖である老子が描かれています。容器の中身である酢をなめ、指を持ち上げた 3 人の様子が描かれています。酢が酸っぱいということについて同じ反応をしています。つまり、観念論が違っても真理は 1 つであることを表しています。